

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 多摩市立鶴牧中学校 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例: 小中高一貫 )  
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒206-0034  
東京都多摩市鶴牧6丁目5番地1

E-mail daihyo-turumaki-chu@city.tama.ed.jp  
Website http://schit.net/tama/jhtsurumaki/

幼児児童生徒数 男子223名 女子227名 合計450名  
幼児・児童・生徒の年齢 13歳～15歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は日常の教育活動を通じて課題解決力を育て、持続発展可能な社会をつくる担い手を育てる視点と理念から、ESDの柱を「防災・減災」に昨年度から置いている。自助・共助の技能・知識を身に付けながら、思考・判断・行動、そして表現の力を育てていきたいと考えている。具体的には、防災・減災を柱に、①防災・減災に係わる活動、②国際理解に係わる活動、③環境に係わる活動、④伝統文化に係わる活動を行った。

### ① 防災・減災に係わる活動

今年の防災・減災キャンプは第1学年を対象に総合的な学習の時間の中で地域・関係機関との連携を図り、避難所を想定した実践的な活動を行った。展開の概要としては、『ショップ体験・サバイバル衣食住』『被災地で役立つロープワーク』『被災地想定緊急搬送法』『被災時の弱者支援』のワークショップを行った。

また、早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター・気仙沼ボランティアチームの方から『被災地の今』というテーマで講演をしていただきました。また、日本赤十字社東京支部の方による『身近なものでできる応急手当』の体験学習を行いました。



講演会の様子



被災地で役立つロープワーク

## ② 国際理解に係わる活動

モンゴル、中国、ブルガリア、ブラジルの留学生による自国の文化紹介の授業を、毎年1・2年で実施している。映像や実物に触れ、留学生に直接質問することでより深い国際理解につながっている。また、留学生の生き方を学び、将来の生き方を考えるよい機会となりました。

## ③ 環境に係わる活動

技術科教員を中心として土壌作り、ゴーヤ栽培を地域の人材を活用して行い、地域環境と関連付けて、グリーンカーテンを作りました。



## ④ 伝統文化に係わる活動

音楽の時間に1年生が、地域の人材を活用して琴の体験授業を行いました。また、平安時代から伝わる貴族の遊びで、百人一首の原型と言われている日本の伝統的な遊びである『貝合わせ』を「東京貝合わせ研究会」の方に来ていただき、畳を6畳ずつ2カ所に敷き、その上に赤い毛氈もうせんを敷いて実施しました。



## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

当校では、「健やかな体と心」の育成の中に、持続発展教育・ESDの推進を位置づけ、身近にある様々な問題を広い視野で捉え自らの課題として考えることから、持続可能な社会の担い手となる生徒を育む。特に、防災・減災教育の充実を図る中で生徒の自助・共助に関する知識・技能の習得と行動力を育むとともに、地域市民の主体的な防災意識を推進できるコミュニティ機能をもった学校づくりを目指している。具体的な指導方法としては、全校生徒に自助パックの指導を行い、中身を考えさせ、校内に保管する指導をしている。また、第1学年では防災・減災キャンプを校内で実施し、防災・減災に対する意識を高める指導をしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

健全育成部の分掌の中に『防災・減災・安全教育』の担当教員を配置し、年度当初に計画・立案をすることで、防災・減災について組織的に活動できるようにしている。また、各学年の総合的な学習の時間の年間指導計画にも位置付けることで継続的に活動できるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

毎年、学校活動の評価を生徒・家庭にアンケート形式で行っている。また、総合的な学習の時間の取組の事後学習でも評価をしている。今年度の成果として、防災・減災キャンプではワークショップや炊き出し実習などの体験的活動を通して、実践力・行動力が身に付いたこと。避難所を想定し、地域・諸機関と連携することの大切さや自分には何ができるのかを考えるきっかけになったことが挙げられた。また、被災未経験の中学生が自ら防災・減災の問題意識を見つけにくいことなどをどのように克服するかが課題として挙げられた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ESDの取組の活動成果については、学校便り、学年通信を通じて保護者へ発信している。また、多摩市教育委員会主催のESD研修会の年間報告書でも成果を発信している。ESDの柱として取り組んでいる防災・減災教育については、地域や保護者の理解を得て協力的である。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

《平成29年度主な連携・協力機関》  
多摩市防災安全課、多摩市教育委員会教育指導課、東京消防庁多摩消防署、多摩消防少年団(消防署 少年団長)、社会福祉法人、多摩市社会福祉協議会 多摩ボランティア、市民活動支援センター、NPO 法人コドモ・ワカモノまちing、唐木田コミュニティセンター運営協議会、唐木田児童館、多摩市民生委員協議会(鶴牧中学区民生児童委員)、多摩市青少年問題協議会 大松台・鶴牧地区委員、あいグループホーム 天の川、早稲田大学ボランティアセンター、東京貝合わせ研究会 他

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

来年度も当校は日常の教育活動を通じて課題解決力を育て、持続発展可能な社会をつくる担い手を育てる視点と理念から、ESDの柱を「防災・減災」に置いて実施する予定である。また、自助・共助の技能・知識を身に付けながら、思考・判断・行動、そして表現の力を育てていきたいと考えている。その他にも、今年度と同様な活動を実施する予定である。

【平成30年度の主な活動内容】

- 防災・減災に係わる活動
  - ・ 自助パックの準備(全学年)
  - ・ 避難訓練の実施(全学年)
  - ・ 防災・減災キャンプの実施(第1学年)
- 国際理解に係わる活動
  - ・ 留学生による国際理解の授業(第1、2学年)
- 環境に係わる活動
  - ・ ゴーヤ栽培(グリーンカーテン)によるエコ活動(第1学年)
  - ・ エコパックの回収(全学年)
- 伝統文化に係わる活動
  - ・ 修学旅行(第3学年)
  - ・ 校外学習(第1、2学年)
  - ・ 琴体験授業(第1学年)
  - ・ 貝合わせ(第1学年)